

2020年5月28日

【重要】新型コロナウイルス感染症対策について（5月28日時点）

日頃から当協会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

公益財団法人日本バスケットボール協会(以下「JBA」)では、去る4月28日(火)に新型コロナウイルス感染症への対応に関する5月末までの方針について、公式サイト等にてお知らせいたしました。政府が4月16日(木)に全都道府県に拡大した新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は、その後、5月14日(木)には39県において解除され、5月21日(木)には関西3府県で、5月25日(月)には全都道府県で解除されました。しかしながら、各都道府県によるスポーツ活動再開に関する指針は異なっており、全国一律の状況ではありません。

このような状況を鑑み、JBAとしては引き続き感染拡大防止について十分に留意し、今後JBAが実施予定としておりました各種事業(会議、競技会、研修・講習会等)につきまして、政府、自治体等の決定、要請、指示に従い、事業の必要性を再検討して、延期や中止、規模縮小の判断をしております。またJBAが主催する会議、その他の打ち合わせ等を行う場合については、感染拡大の防止、参加者の安全に配慮し、都道府県をまたぐ移動を控えるよう、引き続き原則WEB会議で実施をしております。

47都道府県バスケットボール協会、各種バスケットボール連盟等に対しても、その活動の再開に際しては地域の実情を考慮し、政府、自治体、医療機関及び保健所等の公的機関の決定、要請、指示に従っていただくよう、引き続き要請しております。

新型コロナウイルス感染症の国内拡大状況は落ち着きを見せておりますが、国外ではいまだ拡大が続いている地域もあります。今後は第2波を見据えた対策も重要となることから、政府等の見解を踏まえ、時々の状況に応じた柔軟な対応を心がけてまいります。新たな対策を講じる場合等につきましては、JBA公式サイト等を通じて随時公表してまいりますので、バスケットボールに関わる団体・個人・ファンの皆様におかれましては事情をご賢察のうえ、ご理解・ご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

公益財団法人日本バスケットボール協会
会長 三屋 裕子

JBA バスケットボール活動再開に向けたガイドライン

よくあるご質問（FAQ）

Q1	どのような状況になればバスケットボールの試合を行ってよいのか？
A1	「JBA バスケットボール活動再開に向けたガイドライン」（以下、「ガイドライン」という）を参考に、活動再開ステップに準じて段階的な活動を進めた上で、「 試合を行うための選手のコンディションが整っている 」ことと、「 チーム内に感染が疑われる者がいない 」ことの 2つの条件が「最低限揃うこと 」が、試合実施を判断する際の基準になると考えられます。
Q2	試合を行うことの可否は、だれが判断するのか？
A2	ガイドラインにあるように、チームが所在する自治体の状況や周知されている指針、ガイドラインを参考にしながら チーム単位、大会主催単位で判断 いただくこととなります。
Q3	バスケットボール活動の再開に際して、どのようなことを考慮する必要があるか？
A3	ガイドラインでは「 ケガの防止 」と「 感染防止 」の二点を考慮する事としています。
Q4	ケガの防止策として、どのようなことに気を付けるべきか？
A4	運動機会が減少し、体力が低下している状況からのトレーニング再開においては、 トレーニング・練習の強度と量を段階的に高めていく ことを推奨しています。そして、段階的なトレーニングを行い、選手そして指導者の立場から、 試合を行うためのコンディションが整っているかどうか が、試合を行うべきか否かの判断基準となります。
Q5	練習を再開する際の感染防止策として、どのようなことに気を付けるべきか？
A5	「 少ない人数から徐々に人数を増やしていく 」、「 対人を避けた練習から対人を含めた練習へ 」とすることを推奨しています。これにより、たとえ感染が起こったとしても、 最小限の感染者数にとどめる ことができます。一定期間後（2週間程度）、感染を疑う症状がなければ、その人数を増やしてグループ練習とし、引き続き感染を疑う症状がなければ、チーム練習としていきます。このように、まずは 自チーム内で感染の疑いがないことを確認 するために、ステップを踏んでいく期間が必要です。

Q6	対外試合を再開する際の感染防止策として、どのようなことに気を付けるべきか？
A6	<p>自チーム内の選手やスタッフから、感染が疑われる症状が報告されていないことを確認できている場合において、同じく感染対策を行ってきたチームとの対外的な活動（自チーム以外との試合・練習）を実施することができると考えられます。現時点では、PCR 検査などを含め、感染しているかどうかを完全に見分ける方法はありませんので、毎日の体調記録を行い、試合を行う日までの一定期間（2週間程度）における感染が疑われる症状の有無を、判断基準とすることになります。</p>
Q7	大会を開催する際の感染防止策として、どのようなことに気を付けるべきか？
A7	<p>上記の対外試合の場合と同様に、大会に参加するチームにおいて、大会を開催する日までの一定期間（2週間程度）に感染が疑われる症状がないことが、大会開催の判断基準になると考えられます。</p>
Q8	対策することで、感染のリスクを完全になくすことはできるのか？
A8	<p>前述のように試合や大会の開催の判断を行ったとしても、感染のリスクを完全になくすことはできないのが現状です。また、しっかり準備を行ってもケガのリスクも完全になくすことはできません。試合あるいは大会開催の可否判断は、チーム所在地の感染状況や移動によるリスク等も考慮した上で、「現時点で最善のケガの防止と感染防止の対策を行っているか？」という観点から、チームや大会主催者等の感染対策責任者を中心として、学校等のチームの所属団体、選手、保護者、そして指導者の皆さんで行ってください。</p>
Q9	バスケットボールの試合を行うことを許可するための考え方とは？
A9	<p>バスケットボール活動を行えるかどうかは、チームのケガ防止策及び感染防止策が実行され、「バスケットボールができるコンディションである」「感染が疑われる症状を持っている人がいない」ことが目安となります。対策が実行されているかどうかをどの程度チェックするかは、活動再開ガイドラインのチェックリストを参考に、主催者・施設管理者において判断していただきたいと思えます</p>